

令和 6 年 5 月 28 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00050

研究課題名（和文）新儒家牟宗三思想の研究 儒教哲学・宋明思想研究を中心に

研究課題名（英文）A Study of the Neo-Confucianist Mou Zong San Thought: Focusing on Confucian Philosophy and Studies of Song and Ming Thought

研究代表者

藤井 倫明 (Fujii, Michiaki)

九州大学・人文科学研究院・准教授

研究者番号：40867454

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、3年間にわたり、以下の点について解明を試みた。（1）牟宗三は、宋明思想の文献をどのように解釈・整理することで、宋明思想を三系統に分け、程頤・朱熹の系統を支流とする斬新な学説を導き出していったのか、（2）牟宗三は宋明思想における「理」をどのように分析、解釈しているのか、（3）牟宗三の構築した儒教哲学にはどのような現代的な意味、可能性があるのか。研究期間中、国内外の10回のシンポジウムに参加し、研究成果の一部を発表するとともに、学術雑誌や学術専門著作などに投稿し、すでに9篇の論文が掲載され、公となっている。『心體與性體』の翻訳作業に関しては研究期間終了後も継続して進める予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、これまで日本ではあまり取り上げて分析されることのなかった牟宗三思想の特徴、特にその宋明思想三系統説の論理構造、朱子学解釈の特異性、中国哲学研究の分野における牟宗三の貢献、重要性などを解明しており、この点に本研究の学術的意義がある。牟宗三の代表的著作『心體與性體』第一部「総論」部分（319頁）は、難解ではあるが、牟宗三の儒教理解、宋明思想理解が凝縮して述べられており、牟宗三思想を理解する上で貴重な資料となっている。本研究では当該部分の翻訳作業も進めており、翻訳が完成すれば学会に裨益するところ大きいものと期待できる。

研究成果の概要（英文）：Over the course of three years, this study attempted to elucidate the following points. (1) How did Mu Zongzang interpret and organize the literature on Song and Ming thought to divide Song and Ming thought into three distinct lineages, and to develop his novel doctrines with the lineages of Cheng Yi and Zhu Xi as his offshoots; (2) How did he analyze and interpret “reason” in Song and Ming thought; and (3) What are the contemporary implications and possibilities of the Confucian philosophy that Mu Zongzang developed? (3) What are the contemporary meanings and possibilities of the Confucian philosophy constructed by Mu Zongzang? During the research period, he participated in 10 domestic and international symposiums, presented some of his research findings, and contributed to academic journals and scholarly professional works, with nine papers already published and in the public domain. The translation of “心體與性體” will continue after the end of the research period.

研究分野：中国哲学

キーワード：牟宗三 宋明理学 朱子学 新儒家 理気論

1. 研究開始当初の背景

牟宗三(1909-1995)は新儒家を代表する人物であり、その学問・思想は学術世界において大きな影響力を持っている。牟氏は、儒教思想だけでなく西洋哲学や仏教思想にも造詣が深く、スケールの大きな独自の儒教哲学体系を構築した。宋明思想についても鋭い分析を加え、宋明思想の展開を三つに分ける三系統説を主張した。ところが牟宗三の思想やこうした宋明思想理解については、日本では詳しく紹介されることもなく、議論の対象となっていない。中国語文化圏の宋明思想研究では必読とされ、研究対象となっている牟宗三の代表作『心體與性體』についても未だ翻訳がなされていない。よって牟宗三の宋明思想を研究対象とし、その論理構造や特徴を解明することは、日本の学術界において大きな意味を持つものと思われる。

2. 研究の目的

上述したように、牟宗三の学術思想は、中国哲学、宋明思想研究の分野において、極めて重要な学術的意義を有していると思われるのだが、これまで日本においては、その詳しい紹介や踏み込んだ分析がなされてこなかった。そこで本研究では、以下のような問題に注目し、牟宗三の構築した儒教哲学や宋明思想理解の特質について解明しようと試みた。(1)牟宗三はどのような儒教文献に依拠し、またそれをどのように解釈することで中国思想の中に「道徳的形而上学」(道徳をベースとした形而上学)道徳即宗教という「道徳的宗教」の存在及びその歴史的な流れ(道統)を見出していったのか。(2)牟宗三は、宋明思想を三系統に分け、程伊川・朱子の系統を支流とする斬新な学説を提唱したが、牟氏は宋明思想の文献をどのように解釈・分類・整理することで、こうした見解を導き出していったのか。(3)牟宗三が宋明思想における「理」をどのように分析、解釈しているのか。(4)牟宗三の思想・立場と他の新儒家(梁漱溟、熊十力、唐君毅、徐復観)の思想・立場との異同。(5)牟宗三の構築した儒教哲学を通して、儒教思想をはじめとする東洋思想の現代的な意味、可能性はどのようなものか。

3. 研究の方法

本研究は牟宗三の「学術思想」を研究対象とするものであり、具体的には牟宗三の構築した儒教哲学の特質や牟宗三が宋明思想関連の文献をどのように整理・解釈し、系統づけて三系統説を構築したのかなどといった問題を解明するものであるため、基本的には『牟宗三全集』、特に彼の代表的著作とされる『心體與性體』全3冊、及び講義録・講演録である『中國哲學十九講』、『宋明儒學的問題與發展』、『中國哲學的特質』などを分析対象とし、その精緻な読解・分析を試みた。

また『心體與性體』は牟宗三の代表的著作で、特にその第一部「総論」部分(319頁)は、牟宗三の儒教理解、宋明思想理解が凝縮して記述されており、牟宗三思想を理解する上で貴重な資料となっている。そこで本計画を遂行する過程において、この「総論」部分の訳注を試みた。

4. 研究成果

本研究は『牟宗三全集』全32巻など、第1年度に購入・収集した関連資料に基づき研究を進めた。3年間にわたる本研究の成果としては、先ず牟宗三の「理」の理解と宋明思想三系統を唱えた論理構造を解明した点が指摘できる。本研究で明らかとなった点をまとめると以下の通りである。

牟宗三は宋明思想を(1)周濂溪・張横渠・程明道・胡五峰・劉蕺山の系統、(2)陸象山・王陽明の系統、(3)程伊川・朱子の系統に分けて整理し、(1)(2)を内省的体認・自得を重視する「縦貫系統」、(3)を外向的知解・識得を重視する「横摂系統」と規定、「縦貫系統」を「先秦儒家の古義」を継承する正統・主流(「宋明儒の大宗」)であるとする一方、「横摂系統」を「先秦儒家の古義」から逸脱した傍系・支流であると見なしている。そしてこのような分岐が生じた原因に本体(道体・性体)概念としての「理」の性格の違いが存在すると理解している。

牟宗三によれば本体概念としての理には「形構之理」(構成原理、構造形式としての理)と「存在之理」(存在原理、創造主体としての理)の二種類があり、「形構之理」とは事物・事象の本質、属性を意味する理であり、「一」ではなく「多」である。「形構之理」は観察や経験を通して獲得できるもので、論理的な次元の抽象概念とも言える。一方、「存在之理」とは事物・事象をある具体的な事物・事象として実際にこの世界に存在させる「超越的かつ絶対的な真の実体」であり、「実現之理」とも表現される。それは創造化育、道徳創造の働きを引き起こす真のリアリティーと捉えることもできるもので、宇宙にあっては「道体」、人間にあっては「性体」として理解される。

「宋明儒の大宗」である「縦貫系統」も伊川・朱子の「横摂系統」は、同じように後者の意味

での「存在之理」(「実現之理」)を宇宙の本体、人間の本性として捉えており、追求している理は同じタイプのものと言える。ところが、両者では、この「存在之理」の性格、内容についての理解が異なっており、この「存在之理」に対する理解の相違が、両者を思想的に異なる系統として分岐させる原因となっている。「縦貫系統」の儒者は、「存在之理」を「即活動即存有」、つまり活動すると同時に(本体として)存在している=動態的な本体(「動理」)と理解しており、それは超越的な形而上の次元の存在でありながらも、それ自体、活動エネルギーを有しているため、「縦貫系統」の儒者においては、「理」が万物を化育運行し、道徳を創造することができる存在と見なされている。一方、「横摂系統」においては、「存在之理」が「只存有不活動」、つまり、ただ(本体として)存在するのみで活動しない、静態的な本体(「静理」)として捉えられており、「理」とは、超越的に存在しているだけで、活動エネルギーは有していない、万物の性質を規定するだけで、創造はできない存在と規定されることになっている。

このように本体としての「存在之理」が、両者において異なる性格のものとして捉えられることになった原因として、牟宗三は、両者の「存在之理」の求め方、修養方法の違いを指摘している。「縦貫系統」の儒者は、「逆覺體證」という内省的工夫を重視したのに対して、「横摂系統」の儒者は「即物窮理」という知的工夫を重視した。内省的工夫とは、感性に由来する現実の情欲に流されず、そうした情欲に逆らうような形で、吾が身を振り返り、本体の発露である良心の存在を確認し、そこから本体(存在之理)そのものを悟得していく方法である。一方、知的工夫とは、外界に存在しているさまざまな事物の理を広く究明し、されにそれらの理を統攝している唯一の理(存在之理)を識得していく方法である。牟宗三は、こうした工夫、修養のあり方、スタンスの違いが、本体概念としての「理」の性格規定にも影響を与えていると推論している。

以上の内容については、九州中国学会において発表し、また「牟宗三の宋明思想理解 「理」の解釈をめぐって」(『哲学年報』第81輯、2022年)にまとめている。

他、牟宗三は儒教文献をどのように解釈することで中国思想の中に「道徳的形而上学」(道徳をベースとした形而上学)すなわち道徳即宗教という「道徳的宗教」の存在及びその歴史的な流れ(道統)を見出していったのか、牟宗三の思想・立場と他の新儒家(梁漱溟、熊十力、唐君毅、徐復観など)の思想・立場にはどのような異同があるのか、牟宗三の構築した儒教哲学にはどのような現代的な意味、可能性があるのかなどといった問題についても考察を進めた。

研究期間中の成果は、10件のシンポジウムに参加し、研究成果の一部を発表するとともに、学術雑誌や学術専門著作などに投稿し、すでに4件の学術雑誌と5件の図書に掲載され、公となっている。

研究期間全体を通じ、これまでの日本ではあまり取り上げて分析されることのなかった牟宗三の宋明思想三系統説の論理構造、朱子学解釈の特異性、中国哲学研究の分野における牟宗三の貢献、重要性などが明らかになったものと思われる。ただ『心體與性體』総論部分の翻訳作業に関しては未完であるため、研究期間終了後も継続して進め、完成を期する所存である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 藤井倫明 | 4. 巻 64 |
| 2. 論文標題 朱熹の「知」と陽明の「知」 心性論脈絡的「格物致知」詮釈 | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 中山大学学报（社会科学版） | 6. 最初と最後の頁 186-197 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 藤井倫明 | 4. 巻 2 |
| 2. 論文標題 朱子心性論的建構与对《孟子》的詮釈 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 中国心学 | 6. 最初と最後の頁 91-112 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 藤井倫明 | 4. 巻 81 |
| 2. 論文標題 牟宗三の宋明思想理解 「理」の解釈をめぐって | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 哲学年報（九州大学人文科学研究院） | 6. 最初と最後の頁 107-127 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 藤井倫明 | 4. 巻 4 |
| 2. 論文標題 「天地の心」と「生の道」――宋学に流れる『易』の思想 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 易道研究 | 6. 最初と最後の頁 5-15 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 8件）

| |
|------------------------------|
| 1. 発表者名 藤井倫明 |
| 2. 発表標題 朱熹の「知」與陽明的「知」 |
| 3. 学会等名 2023年陽明心學大會（国際学会） |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名 藤井倫明 |
| 2. 発表標題 朱熹「格物致知」論探析 |
| 3. 学会等名 2023年中日韓朱子学学术研討会（国際学会） |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 藤井倫明 |
| 2. 発表標題 近現代日本朱子學研究流變析論 |
| 3. 学会等名 傳承・通變・挑戰：漢學的視域融合 臺灣師大百年校慶國際學術研討會（国際学会） |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|-------------------------------------|
| 1. 発表者名 藤井倫明 |
| 2. 発表標題 「天地之心」與「生道」 貫穿於宋學中的《易》思想 |
| 3. 学会等名 2022臺灣國際儒學學術論壇（国際学会） |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 藤井倫明 |
| 2. 発表標題 九州大学における陽明学研究：回顧と展望 |
| 3. 学会等名 2022年度 二松学舎大学 陽明学研究センターシンポジウム（「近代日本の學術と陽明学」） |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名 藤井倫明 |
| 2. 発表標題 牟宗三の宋明思想理解 「理」の解釈をめぐって |
| 3. 学会等名 第69回九州中国学会大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 藤井倫明 |
| 2. 発表標題 良齋学派与寒洲学派の心説論弁之詮釈 以 心即理説 為中心 |
| 3. 学会等名 2021年度良齋学国際學術會議（国際学会） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---------------------------|
| 1. 発表者名 藤井倫明 |
| 2. 発表標題 朱熹心性論建構與《孟子》詮釋 |
| 3. 学会等名 陽明心学大会（国際学会） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|-------------------------------------|
| 1. 発表者名 藤井倫明 |
| 2. 発表標題 「天」與「數」 佐藤一齋の命運觀探析 |
| 3. 学会等名 中華民國當代日本研究學會2021年會（國際學會） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名 藤井倫明 |
| 2. 発表標題 朱子《孟子》詮釋及其心性論之建構 |
| 3. 学会等名 第十二回中國經學國際學術研討會（國際學會） |
| 4. 発表年 2021年 |

〔圖書〕 計5件

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 藤井倫明・牧角悦子・小島毅・山路裕・大場一央・山村奨・松崎哲之・鈴置拓也・今井悠人・町泉寿郎・錢明・和久希 | 4. 発行年 2023年 |
| 2. 出版社 二松學舍大學・長久出版社 | 5. 総ページ数 256 |
| 3. 書名 近代日本の學術と陽明學（『陽明學』別冊） | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 主編：李威熊、編集：陳逢源、著者：黃忠天、林素英、楊自平、藤井倫明等、全20名。 | 4. 発行年 2023年 |
| 2. 出版社 萬卷樓 | 5. 総ページ数 547 |
| 3. 書名 第十二屆中國經學國際學術研討會論文選集（「朱子的《孟子》詮釋與心性論的建構」） | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 主編：林遠澤、著者：黃俊傑、李明輝、林維杰、張崑將、金培謨、藤井倫明等、全14名。 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 国立政治大学出版社 | 5. 総ページ数 338 |
| 3. 書名 危疑時代の儒學思考（「天」與「數」：佐藤一齋之命運觀探析） | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 編者：黃俊傑、安藤隆穗、著者：黃俊傑・藤井倫明・張崑將・許怡齡・林維杰・黃克武・安藤隆穗・水田洋・朱琳・川尻文彦・区建英・枝川明敬・蔡大鵬 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 国立台湾大学人文社会高等研究院 | 5. 総ページ数 451 |
| 3. 書名 東亞思想交流史中的脈絡性轉換 | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 編者：吳震・申緒路、著者：吉田公平・吳震・中純夫・錢明・鶴成久章・澤井啓一・田尻祐一郎・市来津由彦・藤井倫明・早坂俊廣・荒木龍太郎・三浦秀一・小路口聡・伊香賀隆・陳曉傑・廖肇亨・張崑將・吳孟謙 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 上海古籍出版社 | 5. 総ページ数 412 |
| 3. 書名 中国哲學的豐富性再現：荒木見悟与近世中国思想論集 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|